

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立吾妻小学校

1 学校教育目標

自他共に大切にし、考えて行動する子どもの育成

＜めざす子ども像＞

(1)思いやりのある子、喜んで働く子(徳育)(2)自ら学びとる子(知育)(3)健康でたくましい子(体育)

2 本年度の重点化された具体的な目標

- (1)徳育 ①思いやりと心のこもったあいさつ ②勤労・生産活動
(2)知育 ①基礎学力の向上 ②思考・判断・表現力の向上
(3)体育 ①運動の楽しさを味わえる体育授業 ②健康で安全な生活習慣の獲得

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
基本的な生活習慣 学校教育目標の浸透	気持ちの良い挨拶や返事ができる。	保護者からの肯定的意見を約85%得ている。	A	○引き続き、挨拶やマナー、規律などについて時と場に応じて取り組ませ、定着を図っていく。 ○自己肯定感や自己有用感がもてるよう、1人1人のがんばりや良さを伝える機会を増やすと共に、振り返りの時間を通して自分の長所を認められるようにする。
	社会のルールやマナーを身につけている。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	
	子どもは自分の長所や良さを自覚している。	保護者からの肯定的意見が80%を下回っている。	C	
	子どもは友だちの良いところや頑張っていることを認めている。	保護者からの肯定的意見を95%以上得ている。	A	
	学校は今年度のキャッチフレーズに合った教育に努めている。	保護者からの肯定的意見を85%以上得ている。	A	

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学習習慣	基礎・基本となる学習が身についている。	保護者からの肯定的意見を85%以上得ている。	A	○ユニバーサルデザインを意識して、誰にでも分かる授業展開を図る。 ○朝読書の時間を創設し、読書に親しみ本の面白さに気づけるようにする。 ○タブレット端末を活用した授業の一層の工夫と充実を図るために、ICTの研修や支援員を活用した取り組みを充実させる。
	家庭学習をする習慣が身についている。	保護者からの肯定的意見を90%を下回っている。	A	
	進んで読書をしている。	保護者からの肯定的意見が40%である。	D	
	学校はわかりやすいように工夫して学習指導を行っている。	保護者からの肯定的意見を85%以上得ている。	A	
	学校はタブレット端末を活用し、ICT教育の推進に努めている。	保護者からの肯定的意見が85%を下回っている。	C	
	学校は児童の健康や体力の向上に努めている。	保護者からの肯定的意見を約95%得ている。	A	

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
望ましい人間関係	楽しく登校できている。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	○児童1人1人の声をよく聞き、個に応じた声掛けや対応を進める。 ○学校生活アンケートを今後も継続し、トラブル等の早期発見、早期解決に努めると共に、ケースによっては組織的な対応を今後も続けていく。 ○引き続き、相談に誠実に対応していく。
	友達と仲良く生活している。	保護者からの肯定的意見を95%以上得ている。	A	
	不安なことや困ったことを相談することができる。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	
	学校は相談したことに対して誠実に対応している。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	
	学校はいじめや暴力のない学校づくりに努めている。	保護者からの肯定的意見を85%以上得ている。	A	

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
-------	------	-------	------	-------

保護者・地域との連携	学校は便りやメールを通して、分かりやすく情報を提供している。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	○適宜、便りやメールを通して情報提供を行い、保護者との情報共有に努める。 OPTAやスクールガード、ボランティアの方達と協力し、児童支援にあたる。
	学校は保護者や地域と協力・連携し、児童の健全育成に努めている。	保護者からの肯定的意見を95%以上得ている。	A	
	学校は校内外の環境美化に努めている。	保護者からの肯定的意見を90%以上得ている。	A	

4 自己評価の結果の分析

多くの項目で、肯定的な意見を得ているが、読書に関する項目が保護者・児童共に低かった。次年度、朝読書の時間を毎日取るようにして本に親しむ機会を増やしていく。また、日課表に図書の時間を位置づけ、積極的な読書活動に更につなげていきたい。

自分の良さを見つけられていない児童が多い。学校教育目標にあるように自分の良さを認め、自分を大切な価値ある存在であることを実感できるような取り組みを、引き続き行っていく必要がある。そのことにより、学校は楽しいと思える児童を更に増やしていきたい。

学習面については、個人差が大きい中、誰もが分かる授業づくりを進めていく必要がある。タブレット端末を活用しながら、児童が主体的に学べるよう職員の研修も進めていきたい。

保護者・地域との連携においては、情報提供を引き続き丁寧に行うと共に、地域の力を借りて学校だけでなく、地域と共に児童の育成に努めていきたい。